

8歳女児に肺移植成功

6歳未満
脳死提供
50代女性には肝臓

臓器移植法に基づき脳死と判定された6歳未満の女児から提供された両肺と肝臓を2人の患者に移植する手術が14日、岡山大病院(岡山市北区鹿田町)で行われ、

ができにくくなる特発性間質性肺炎を患う女児(8)と、関東地方在住、肝臓は急性肝不全の50代女性と広島県在住の2人に移植された。(4面に関連記事)

提供された臓器を移植したのは初めて。6歳未満のドナーから10歳未満の患者への脳死肺移植は、昨年11月の京都大病院に次いで国内2例目。

無事終了した。肺は肺胞壁に炎症を起こし、ガス交換

両肺の移植手術は大藤剛宏・肺移植チームの執刀で午前8時42分に始まり、午後4時に終わった。早ければ1カ月後にも退院できる見込み。女児は出生直後から呼吸障害があり、昨年10月に日本臓器移植ネットワークに登録していた。



岡山大病院で6歳未満の臓器提供者(ドナー)から提供された臓器を移植した。手術前の女児に「臓器は成長とともに大きくなり、移植としては理想的」と説明。手術後の女児は2010年の改正移植法施行後、3例目。(伊丹友香)

の分まで元氣になって生きていこうね」と伝えるとうなずいたといい、「元氣になったら学校に行きたい」とも話していたことを明らかにした。

肝臓は八木孝仁・肝胆臓外科教授が執刀、午前10時29分に始まり、午後7時55分終了した。女性は移植以外に救命法がなく、今月8日、日本臓器移植ネットワークへ登録していた。手術後、八木教授は「患者は非常に重篤で最後のチャンスだった。家族は非常に感謝していた」と述べた。

日本臓器移植ネットワークによると、ドナーの女児は大阪大病院に拡張型心筋症で入院。心臓移植の待機患者としてネットワークに登録するとともに、海外での移植に向けて渡航準備をしていた。

6歳未満からの臓器提供は2010年の改正移植法施行後、3例目。(伊丹友香)

提供された両肺を移植する手術を行う医師ら＝14日午前10時

38分(岡山大病院提供)